



2023-24 年度
国際ロータリー会長
ゴードン R. マッキナリー

Weekly Report Niigata



2023~24 年度
新潟ロータリークラブ会長

内山 博之

新潟 RC 8 月第 3 例会 (2023.8.22) (Zoom 例会併催) No.3471

(1) ロータリーソング「我等の生業」斉唱

(2) 内山 博之会長挨拶

皆さん、こんにちは。お盆休みも終わりました、朝方は多少秋らしい気候になってきたかなと思う今日この頃であります。日中は相変わらずの猛暑続きであります。また、コロナ感染者も少しずつ増えているような感じもしております。体調に留意しながらこの夏を乗り切って参りましょう。さて、一昨日の日曜日ではありますが、社会奉仕委員会主催で恒例の関屋海岸清掃と BBQ を開催いたしました。今年は、60 名参加ということで過去一番多くのメンバーそして社員さん、ご家族の方にご参加いただきました。熱中症警戒アラートが発令されている中での海岸清掃でありましたが、体調を崩す方もおらず、清掃後夕日を眺めながら BBQ を楽しみ、親睦を深めることが出来たと思います。社会奉仕委員会の皆さん、ご参加いただいた皆さん、大変ご苦労様でございました。さて、本日は、私本業は税理士でありますので、少し専門の税に関するお話をさせていただこうかなと思います。今後、不定期ではありますが、皆さんにとって少しはためになるかもしれない小話シリーズとして聞いていただければ幸いです。第一回目の本日は、消費税のお話をさせていただこうと思います。今年 10 月より施行されますインボイス制度については、皆さんご存知の通りですが、それに関してそもそも消費税とはどうゆう税金なのかというお話が聞こえてまいります。消費税は、消費者が負担する間接税なのか、消費者からの預り税なのか、益税として懐に入れている免税事業者は不届き者なのか？結論は、消費税は、我々事業者が各取引段階で納税義務を負う付加価値税であることは消費税法上も明確でありまして、財務省も言っている通り預り金的な性格を有する税であり、つまり、消費者は最終的に消費税分が転嫁された価格を支払っているに過ぎず、免税事業者による益税など存在しないこととなります。

消費者の方も、普段目にする表示が税込みだったり消費税別だったりするので、いかにも消費者自身が消費税を負担しているものと思込みがちですし、また我々事業者も実務では消費税抜き処理を前提として会計処理を行っておりますので、どうしても税抜き処理イコール預り金という思考になりがちであります。税制の議論のベースはあくまでも法律であるべきなのですが、現状は法律の外のところで消費税が預り金だという仕組みと認識が出来上がっているわけです。インボイス制度が、消費税が付加価値税として認識された上で導入されるのであれば問題ないのですが、消費税が預り金であり、益税で儲けているだけの免税事業者がいるということを前提に導入しようとするから極めていびつな形になるのであって、これによって社会に新たな分断を生んでしまっているのです。このような状況下で本来国は、インボイス導入前にこのような誤解を解くべきなのですが、消費税導入から 30 年も経過し今更預り金でないことを認めてしまうと、そもそも消費税の前提が全く違うものになってしまいます。消費税は国民が広く薄く平等に負担して社会保障財源となるといってスタートしたわけですが、実は消費者が支払っていたものは消費税分が乗った価格であり、つまりは単なる値上げに過ぎなかったとなれば、消費税そのものへの反対運動にも発展しかねません。今後インボイス導入により事業者の負担増加により相当景気に悪影響が起きるものと思われるので、私個人的には導入反対であります。以上、本日の会長挨拶とさせていただきます。有難うございました。

(3) グローバル奨学生 遠藤悠さん帰国挨拶

(4) 委員会報告

・本多晃財団委員長よりバザー開催ご案内

「世界でよいことをしよう」を目的にバザーを月見例会で開催したいと思います。会社や自宅にあるご自分ではご使用にならないものなどをお願いします。会社の販促品、古本、お中元で頂いたものなど、ご自分には不要なもので、他の方が購入したくなるような物品をお願いします。また、わざわざ購入する位であれば、そのまま寄付していただいた方が良いでしょう。10月24日の月見例会までにイタリア軒までお持ちください。

・佐藤 邦栄社会奉仕担当理事より海岸清掃報告

令和5年8月20日(日)、社会奉仕委員会主催で恒例の夏の行事である海岸清掃(関屋浜及びその周辺の公園やサイクリングロードの清掃)を行いました。内山会長、ロータリアンと所属会社の社員の皆様、ロータリアンファミリー、ローターアクト、総勢60名が参加されました。清掃終了後には、Sea Pointの屋外テラスにて、海辺の涼しい風を感じながら、バーベキューによる懇親会を開催しました。当日は快晴で雄大な日本海に沈む夕陽は絶景でした。また、ご参加された家族による花火大会も開催されました。ご参加いただいた皆様、ご協力ありがとうございました。

(5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(本多 晃委員長)

本多晃君 (8/8) 内山 博之君

本多 晃君 徳永 昭輝君

米山奨学会寄付発表(佐藤 隆夫委員長)

小飯田澄雄君 (8/8) 織戸 潔君

青少年育成基金寄付発表(高山 克幸委員長)

本間 彊君 (8/8) 小飯田澄雄君 (8/8)

本間 彊君

(6) ニコニコボックス紹介(正力源一郎委員)

・徳永 昭輝君 グローバル奨学生 遠藤悠先生を歓迎して

・白勢 仁士君、正力源一郎君 夏の甲子園大会で母校の慶應高校が103年ぶりの準決勝に勝利しました。明日、107年ぶりの優勝の暁にはまた、ニコニコします。

・白勢 仁士君 遅くなりましたが誕生祝のワインありがとうございました。

・高杉 直希君 本日、みなさまに弊社でお手伝いをさせていただいているセミナーのチラシ(次世代ビジネスリーダー向け 事業開発ワークショップ 8/31~12/14)を配布させて頂きました。よろしく願いいたします。

(7) 石橋正利さんへ米山功労者第1回感謝状贈呈

(8) 幹事報告(小川 潤也幹事)

8月20日海岸清掃会場に 帽子とタオルハンカチの忘れ物がありました。お心当たりの方は事務局の机に置いてありますのでお持ち帰り下さい。

(9) 8月22日の例会参加率

会員数	算定対象者	出席者	参加率
83	82	70	85.37

Zoom 参加 10名

8月29日の例会予定

会員スピーチ『新しいNISAの制度と活用法』

～新しいNISAを使いこなせば 未来が変わる！？～

岡三にいがた証券(株)代表取締役社長 江越 誠君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

会員増強における新潟クラブの現状と問題点：パートⅡ

RI・第2560地区：会員増強・戦略計画・広報委員会委員長石本 隆太郎（新潟RC）

はじめに：自己紹介

1982年	新潟ロータリークラブ入会
1992～93年	第2560地区・拡大委員長
2000～01年	新潟ロータリークラブ・会長
2006～07年	第2560地区・会員増強委員長
2011～12年	第2560地区・ガバナー
2016～24年	第2560地区・諮問委員、危機管理委員長
2022～25年	第2560地区・諮問委員、会員増強・戦略計画・広報委員長

世界における会員増強の推移：“栄枯盛衰は世の習い！”

- 1905年 ポール・ハリスと友人3人で発足したロータリークラブは、その後、世界中に拡がり、会員数120万人を超える組織に発展。
- 1920年（大正9年） 東京ロータリークラブ創立。1940年（昭和15年）第二次世界大戦により国際ロータリー脱退。1949年（昭和24年）国際ロータリーに復帰後、目覚ましい発展を遂げている。
- 世界各国の会員数の推移では、1994年にアメリカの会員数は421,823人でピークを迎えたが、その後、30%以上会員を減らしている。
- 我国でも、1997年の131,731人をピークにして、2022年には82,574人と37%も会員が減少。この傾向は、我国の人口動態から、今後、より顕著になると予想される。

資料・1 ロータリー会員数上位国の国別会員数推移表

順位	国名	参考	2006年6月	2010年3月	2014年3月	2017年1月	2019年7月	2020年7月	2021年7月	2022年7月	2022年/ 2006年
1	アメリカ	1994年 421,823人	383,697	361,551	323,988	324,446	309,260	298,428	283,304	278,092	72.5%
2	インド		91,089	107,454	123,988	142,032	146,771	149,744	158,337	166,526	182.8%
3	日本	1997年 131,731人	101,370	91,976	88,427	89,249	87,873	85,487	83,697	82,574	81.5%
4	韓国		52,003	59,726	59,798	63,244	61,472	60,994	62,411	64,819	124.6%
5	ドイツ		45,094	49,087	52,693	54,856	56,387	56,697	57,044	57,498	127.5%
6	ブラジル		50,925	53,223	55,763	53,955	52,278	52,238	51,076	49,313	96.8%
7	イタリア		41,845	42,458	40,119	39,456	39,467	38,977	37,995	38,196	91.3%
8	台湾		17,088	19,601	28,503	34,510	32,659	32,390	32,936	33,447	195.7%
9	イングランド		49,106	42,942	41,088	37,772	34,276	32,702	30,563	28,708	58.5%
10	フランス		33,546	33,442	32,530	31,432	30,095	29,217	28,219	27,866	83.1%
11	オーストラリア		34,422	33,230	30,900	28,828	26,556	25,349	24,683	23,691	68.8%

*アメリカと共に日本、イングランド、オーストラリアの会員数減少の理由は何か？

その一方、インド、台湾、韓国の急増と共に、ドイツが健闘している点に注目する必要がある。

RI2560 地区における会員数の推移と、新潟クラブの会員数の推移及び問題点

1・私は1982年に新潟ロータリークラブ入会以来40年余り。会員増強と深く関わるようになったのは、1992年の栗山ガバナー年度に、地区拡大委員長を拝命してからです。

2・当時の2560地区は新潟県と群馬県が一緒で、ガバナーは新潟県と群馬県から一年交代で選出。

新潟県内46クラブの会員数は2,669人。群馬県内36クラブの会員数は2,550人。

両県併せて82クラブ、会員数5,219人という大きな地区で、ガバナーの負担は大変でした。

②（以下、資料・2の『RI2560地区：会員増強クラブ別健康診断書＝改訂版』をもとに説明）

3・この表は、1992～93年の栗山ガバナー年度を起点として、2023～24年の米山ガバナー年度までの30年間の2560地区全クラブの会員増強の推移を3ページにカラー表示。

2020～21年佐藤ガバナー年度から、2023～24年米山ガバナー年度迄の4年間分を再編集してある。

4・参考までに、上記の資料・1「ロータリー会員数上位国の国別会員数推移表」の年度に合わせて、当地区の会員数、女性会員数を資料・2として一覧表にした。

資料・2 第2560地区・1992～93年（栗山G年度）～2023～24年（米山G年度）会員数推移表

1992-93年	2003-04年	2006-07年	2009-10年	2013-14年	2016-17年	2019-20年	2020-21年	2021-22年	2022-23年	2023-24年
栗山G年度	原G年度	中條G年度	植木G年度	山崎G年度	田中G年度	大谷G年度	佐藤G年度	高尾G年度	高橋G年度	米山G年度
会員数 2,669	2,215	2,040	2,087	1,990	2,104	2,052	2,074	2,000	1,958	1,990
女性会員数 8	87	103	119	137	152	141	141	145	151	156
女性会員比率	3.9%	5.0%	5.7%	6.9%	7.2%	6.9%	6.8%	7.3%	7.7%	7.8%

資料・1によれば、我国の2022年の会員数は、2006年の会員数に比べて81.5%と2割近く減っているが、

資料・2によれば、2560地区の2022年の会員数は、2006年の会員数に比べ4%減で、比較的善戦している。

女性会員も、2006年に比べ順調に増えているが、2016～17年の田中G年度以降、やや停滞気味である。

1992～93年（栗山ガバナー）から2003～04年（原ガバナー）：バブル経済の崩壊

1・栗山ガバナーは、新潟県と群馬県で構成される2560地区のクラブ数82。会員数5,000人規模の地区となり、“ロータリーの更なる発展のためには、地区分割が必要！”との強い信念から、私に対して、「年度内に新しいクラブを3クラブ作るように。」と厳命。

2・当時の新潟市内5クラブから拡大委員を選出していただき、新潟市内全域をテリトリーとする新潟中央クラブと、夜例会中心で女性会員多数を含む新潟万代クラブの創立に成功すると共に、栗山ガバナーの肝いりで新発田中央クラブの創立も実現し、所期の目標を達成。

3・その後も新潟県側で10クラブの新設に成功すると共に、群馬県側のクラブ新設も順調に進み、2000年～01年に、念願の地区分割が実現。第2560地区は、新潟県単独の地区となった。

資料・3 RI2560地区における新クラブ拡大の推移（創立年月日順）C・M＝チャーターメンバー

1993.2.16	1993.5.18	1993.6.7	1993.12.12	1995.1.22	1995.2.26	1996.5.23	1998.12.20	2000.12.17	2001.5.22	2006.7.19
新潟中央	新発田中央	新潟万代	田上あじさい	中条胎内	越後春日山	越後魚沼	阿賀野川ライン	村上岩船	柏崎中央	三条東
C・M45名	C・M43名	C・M50名	C・M27名	C・M37名	C・M36名	C・M25名	C・M20名	C・M28名	C・M33名	C・M39名

4・この時期は、我国におけるバブル経済崩壊時期と重なったため、栗山ガバナー年度の新潟県側の会員2,669人と、原ガバナー年度の会員2,215人を比較すると、10年間で会員数は454人も減少。

新設クラブ344人の会員増強がなければ、2,000人の大台を割り込んだと推定される。

5・当地区において、この10年間で会員が10%以上増えたクラブは僅かに6。横ばいクラブが14。

20%以上、会員減少したクラブは35。40%以上会員を減らしたクラブが小規模クラブに集中。

2003～04年（原ガバナー）～2012～13年（鈴木ガバナー）：自然災害・大地震との戦い

資料・3 第2560地区・2003-04年（原G年度）～2012-13年（鈴木G年度）会員数推移表

1993～		2004. 10. 23		2007. 7. 16		2008. 9. 15		2011. 3. 11		
バブル経済崩壊		中越大地震		中越沖大地震		リーマンショック		東日本大地震		
1992～93年	2003～04年	2004～05年	2005～06年	2006～07年	2007～08年	2008～09年	2009～10年	2010～11年	2011～12年	2012～13年
栗山G年度	原G年度	横山G年度	神成G年度	中條G年度	渡辺G年度	馬場G年度	植木G年度	東山G年度	石本G年度	鈴木G年度
2,669名	2,215名	2,136名	2,046名	2,040名	2,161名	2,161名	2,087名	2,036名	2,009名	1,996名
新潟RC 138	84	91	85	82	86	83	78	80	77	81
新潟南RC 94	52	54	61	66	73	74	72	65	71	74
新発田RC 89	78	78	72	73	74	77	78	76	79	80

③

1・この10年間は、自然災害・大地震との戦いの10年間で、2004年10月の中越大地震に始まり、2007年7月の中越沖地震、2011年3月の東日本大震災。さらに新潟県内でも多くの風水害が発生。2008年9月のリーマンショックも重なり、バブル経済崩壊の影響が残っていた県経済、とりわけ地方のロータリークラブに大きな影響が出た。

2・2006～07年の中條ガバナー年度に地区会員増強委員長拝命。再び会員増強と深い関係を持った。中條ガバナーより“10%増！”の課題を与えられ、苦肉の策としてPETSの際に考案したのが、会員増強用参考資料『2560地区・会員増強クラブ別健康診断書』である。

参考資料『2560地区・会員増強クラブ別健康診断書』について

3・このカラー刷り一覧表は、地区内57クラブ（当時）の7月1日現在の会員数を表示。毎年、会員数の多い順に並べ替えると共に、各クラブ毎の前年との増減率を110%以上は濃い青、105%～110%は薄い青、95%～105%は白、85%～95%はピンク、85%未満は赤地で埋めて、各クラブの会員増減状態＝健康状態が一目瞭然にわかるようにしてある。

5・中條ガバナー年度にこの表を考案。「ガバナー月信」に3ヵ月毎に掲載。その反響は大きくて、地区内クラブの多くが「会員増強」を意識するようになり、中條年度終了時には、全国34地区の大半が会員数マイナスとなる中、当地区は121名の会員純増で、ダントツで全国1位となった。

6・2008～09年の馬場ガバナー年度から2012～13年の鈴木ガバナー年度にかけての5年間、2008年9月のリーマン・ショック、2011年3月11日の東日本大震災の影響もあり、クラブ規模の大小を問わず会員増強は低迷し、地区会員数2,000名前後を維持するのが精一杯の状況であった。

2013～14年（山崎ガバナー）～2022～23年（高橋ガバナー）：新型コロナウイルス感染症

資料・4 第2560地区・2013～14年（山崎G年度）～2022～23年（高橋G年度）会員数推移表

*参考として、地区内上位3クラブの会員数を下記に表示						2020.1月～			2022.3月～	
—						新型コロナウイルス感染症			ロシアのウクライナ侵攻	
年度	2013～14年	2014～15年	2015～16年	2016～17年	2017～18年	2018～19年	2019～20年	2020～21年	2021～22年	2022～23年
ガバナー	山崎G年度	佐々木G年度	山本G年度	田中G年度	新保G年度	川瀬・新保G年度	大谷G年度	佐藤G年度	高尾G年度	高橋G年度
地区会員数	1,990名	2,028名	2,092名	2,104名	2,085名	2,096名	2,052名	2,074名	2,000名	1,958名
新潟RC	83	92	93	92	86	86	84	88	82	79
新潟南RC	85	90	95	97	99	104	103	98	105	108
新発田RC	85	89	92	97	93	95	91	95	93	88

- 1・山崎ガバナー年度から大谷ガバナー年度前半までは、経済情勢も落ち着きを見せはじめしており、自然災害等も少なかったため、青地のクラブが増え、赤地やピンク地のクラブが減っている。
- 2・2014～15年の佐々木ガバナー年度から、2016～17年の田中ガバナー年度にかけての3年間は、各クラブの会員増強は比較的順調で、会員純増クラブが増え、地区も会員純増を達成。
- 3・しかし、2019～20年の大谷ガバナー年度の後半に入り、中国発新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延。このパンデミックにより世界中のロータリー活動も多大なる影響を受けた。
- 4・本地区も、三大事業である PETS、地区研修協議会、地区大会はじめ各委員会セミナー等が中止や延期・縮小に追い込まれ、その結果、大谷ガバナー年度から高橋ガバナー年度にかけて、本地区も会員減少を余儀無くされた。(資料・3の会員増強用参考資料：クラブ別健康診断書参照)

小規模クラブにおけるクラブ解散が続出

- 1・新クラブ設立要件である会員数20名は、健全なクラブの組織編成とロータリーの5大奉仕事業を実行するための最低条件で、20名を下回るとクラブの活性化にブレーキが掛かり始める。
- 2・2013～14年の山崎ガバナー年度に入って、冬季観光の不振等もあり、会員数20名を割り込んだ妙高高原クラブが最終会員4名となり、遂に支えきれず、クラブ解散に追い込まれた。

④

3・さらに、2021～22年の高尾ガバナー年度に入り、会員11名の頸北クラブが、突然、解散決議したとの報告があり。さらに“五泉クラブ解散?”との情報が入り、高尾ガバナー以下、地区役員は対応に追われたが、年度末に至り、五泉クラブ解散承認という残念な結果となった。

4・一方、規模の大きい新潟 RC、新潟南 RC、新発田 RC の直近10年間の会員増強状況は殆ど横ばいで推移しており、特に新潟南 RC の会員増強は目を見張るものがあり、地区内リーディングクラブと称されていた当クラブとしても、謙虚に反省し、新潟南クラブを参考にする必要がある。

2022～23年(高橋ガバナー)～：新型ウイルス感染症とロシアのウクライナ侵攻

1・地区会員増強委員会は3年前の大谷年度から、ロータリー活動を継続発展させていくためには、会員の維持増強は不可欠であり、会員増強を効果的に行うには、長期戦略に基いた計画と共に、ロータリーの広報公共イメージ向上が不可欠との考えで、3年委員会として1本化された。

2・2022～23年の高橋ガバナー年度より委員長を拝命。今年の米山ガバナー年度で2年目を迎える。

去る7月29日、「地区クラブ活性化セミナー」を開催した。

3・各クラブ会長始め会員増強委員長は毎年交代される方が多いため、皆さんに本日お配りした資料、『地区内クラブ別会員増強健康診断書』を基に、地区内クラブ会員増強の現状について説明。

戦略計画を基にした会員増強成功クラブの事例報告。さらに、ガバナー補佐を中心にして、分區別ブレインストーミングを行い、会員増強への意思統一を固めていただいた。

4・『地区内クラブ別会員増強健康診断書』によれば、直近3年間における第2560地区会員数は、佐藤年度から高尾年度にかけて74名減。高尾年度から高橋年度にかけて42名減となり、コロナ禍の影響は否定出来ない。

5・幸い、高橋年度から米山年度にかけては31名増と反転しているが、ロシアのウクライナ侵攻による政治経済への影響も注視する必要がある。

6・『地区内クラブ別会員増強健康診断書』下段のコメントでも述べているが、30年間にわたり本地区の会員増強の推移を見つめてきた小生の感想は、「クラブの歴史や会員規模は様々であり、全てのクラブの会員増強が上手く行くというような“特効薬”は無いということ。

7・さらに、バブル経済の崩壊、大地震等の自然災害、さらにはパンデミックや人口減少問題等々、会員増強の阻害要件が次々発生する中で、会員増強におけるクラブ間格差が生じる理由は何か?

8・それは、会長以下、会員一人一人が“真に自分のクラブをよくしたいという気持ちの有無”だと思います。ロータリーの例会や委員会、同好会等の活動が楽しくて、自分や地域社会にとって役に立つものであるという認識があれば、知人・友人に入会を勧めることはさほど難しいことではないと思いますが、皆さんはいかがお考えでしょうか?

終わりにあたり

- 1・今回は、地区会員増強・戦略計画・広報委員長という立場から、地区の会員増強に関するお話しが中心となりました。
- 2・一昨年、クラブの会員増強委員長として100名の大台を目指したものの、82名という不本意な結果に終わり、改めて、会員増強の難しさを痛感致しました。
- 3・コロナ禍という悪条件下で、予定していた若手経済人への働きかけが十分できなかったことが要因ではありますが、前述した新潟南クラブや友好クラブの前橋クラブの現状と比べても、会員増強面で当クラブが遅れを取っていることは否定できません。
- 4・今回は、当クラブの会員構成の最新データによる分析表を作成する時間がありませんでしたが、地元会員の高齢化が進んでいるのは否定できず、若手経済人と女性会員の増強は最大急務です。
- 5・全委員会が総力を挙げて委員会活動を充実させると共に、例会や同好会を楽しく有意義なものとし、全会員が一人でも多く、友人・知人への積極的入会勧誘をされますことを祈念いたします。